

# 令和 3 年度 獨協埼玉中学校 自己評価シート

目指す学校像	豊かな感性、健康な心と体を育み、自ら考え判断できる生徒を育てる。
--------	----------------------------------

重点目標	1. 中学3年間で身に着けるべき学習目標の達成に向けて教育内容の充実を図る。 2. SNSの利用に関して細かな指導を行い、同時に保護者への協力を依頼する。 3. 登下校時の安全とマナーの向上を図る。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月31日 現在 )		実 施 日 令 和 4 年 月 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習、読書・新聞の時間、小テスト、補習など基礎学力の育成に向けて様々な取り組みをしているが、中学から高校への移行期の中だるみの傾向を改善する必要がある。</li> <li>日常の学習習慣の定着。(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習の内容小テストの実施とその効果</li> <li>興味を持ち自ら目標設定ができているか</li> <li>検定試験の目標設定の明確化</li> <li>学習習慣定着のための試みがなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習、小テストの実施方法、内容の吟味と日常学習の定着を促す。</li> <li>ICTを活用した授業の取り組みを積極的に行う。</li> <li>希望者に対して、授業の枠を外して、興味関心を抱くような課題提供を行う。</li> <li>学年、教科ごとに検定試験の目標を明確にする。</li> <li>放課後の自習教室の設定。</li> <li>もう少し知りたいと思うような、モチベーションアップにつながる授業の展開。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な内容と、小テストに対するフォローができたか。</li> <li>学習内容だけではなく、取り組む姿勢に対しても生徒と接点を持つことができたか。</li> <li>より積極的に何かに取り組もうとする気持ちを育てることができたか。</li> <li>検定試験の目標は明確になっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストの事前予告の時期を早め、準備をして受験するよう促し一定の効果は得られた。</li> <li>Chromebookを用いた授業や課題等の配信により効果的な学習を行うことができた。</li> <li>提供された課題に興味を持ち、楽しみながら取り組むとともに通常の授業における積極性に変化があるなどの効果が見られた。</li> <li>試験前の自習教室を行った。</li> <li>設定目標に向けて努力する生徒が少しずつ増えている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して生徒が主体的に学習に向かう環境を生み出す努力が必要である。</li> <li>試験前以外での自習教室を行う必要がある。</li> <li>生徒の学びを止めないため、授業内や家庭学習を支えるために教員研修を引き続き続ける必要がある。</li> </ul>	1. 朝学習、小テストは、短期的な努力目標として効果を実感できる意味で、良い取り組みである。  Chromebookを用いた授業は、社会に出てから対面が難しい場面に遭遇した際のことを考えても、必要なことだと評価している。  学習習慣の定着のための試みは、本人が申告した学習時間に対する教員や保護者のフィードバックにより、数字には表れにくい努力する過程の喜びを実感させる意味でも必要である。  一つの取り組みとして、「自己目標シート」を作成させて、自己啓発を促すのも良いのでは…
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話の使用法や SNS によるトラブルが後を絶たない。公共の場での使用方法に対する指導も継続して必要である。(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話の使用実態の把握</li> <li>SNSの利用法に対する指導状況とその効果の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校内での携帯電話に関するルールの徹底と指導。</li> <li>家庭での携帯電話の使用に関して保護者の協力を依頼。</li> <li>携帯電話教室を開催し、主に SNS の利用について講義を行い考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS によるトラブルは減少したか。</li> <li>校内・公共の場・家庭内における携帯電話利用のルールは守られているか。</li> <li>携帯電話教室による効果の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話教室の実施、各家庭への協力依頼、HR における日常の指導等を行っているが、SNS に関する様々な事象が引き続き起きている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSをはじめ携帯電話を中心とした環境はますます難しくなっている。さらなる指導の継続を行う必要がある。</li> </ul>	2. 携帯電話に関しては、生活をとても豊かにしてくれる反面、いじめに発展したり、犯罪に巻き込まれるリスクもある。そのことを踏まえて、具体的事例を紹介しながら、注意喚起をしていただけるとありがたい。  マナー教室を定期的で開催するのも一案である。
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時の安全とマナーの向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時の安全とマナーの向上を図る。</li> <li>他者に配慮した行動がとれるよう、道徳心を育む。</li> <li>積極的に挨拶する習慣をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスの乗車指導を継続する。</li> <li>試験期間中の通学路での下校指導を継続する。</li> <li>バスや電車内等、公共の場でのマナー向上に努める。</li> <li>教員自ら積極的に挨拶を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗車指導、学校周辺での登下校指導を継続したか。試験中の通学路での下校指導を継続したか。</li> <li>バスや電車内のマナーにかかわる苦情はなくなったか。</li> <li>日常生活の中で、積極的に挨拶を行っているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスの乗車指導、駅周辺での指導を継続して時には人数を増やして行った。</li> <li>試験期間中の通学路での下校指導を継続して行った。</li> <li>バスや電車内マナーの苦情は減少傾向にあるが皆無ではない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校での安全対策とマナー向上、および、電車内のマナー向上には継続した指導が必要である。</li> <li>日常的な登下校指導への取り組みは難しいが、パトロールするなど改善および工夫が必要である。</li> <li>挨拶を含め積極的なコミュニケーションをはたらきかける必要がある。</li> </ul>	3. 獨協埼玉の制服を着ていることへの誇りと自覚を持たせることで、常識はずれた言動を慎むようになるであろうから、そうした声かけを継続的に行ってほしい。  また苦情が寄せられていることを知らない保護者もいるでしょうから、懇談会の際に話題にさせていただき、家庭の協力を得ながら指導できるようにしていきたい。  登下校の安全については、マナーを守っていても完璧とはいかないので、通学路の見直しや不審者情報公開など適宜対応していただきたい。

